

健康科学大学と富士河口湖町との 地域連携活動について（平成28年度）

地域連携推進委員会

坂本宏史 小沢健一 川手豊子
成田崇矢 瀧口綾 永井正則

Collaborative activities of Health Science University with Fujikawaguchiko town in 2016

SAKAMOTO Hiroshi, OZAWA Ken-ichi, KAWATE Toyoko,
NARITA Takaya, TAKIGUCHI Aya, and NAGAI Masanori

抄 録

「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」に関連して行われた本年度（平成28年度）の活動について報告した。

「包括連携協定」の目的の一つである「知的財産の共有」に関連して、本学教員が地域住民に対して「富士河口湖町・健康科学大学 地域連携講座」を開く一方、町役場の職員が講師として本学で授業「地域連携の理論と実際」を行い、地域行政の基本や取り組んでいる事業について紹介した。「地域連携講座」の第1回（9月27日）は、本年度4月に開設された健康科学大学都留キャンパスで「日常生活における認知症の予防」をテーマに開催された。つづいて第2回（10月9日）は、本学河口湖キャンパスで、大学文化祭（蒼麓祭）の一つの企画として、第3回・4回（11月20日）は、富士河口湖町中央公民館で「コミュニティフェスタ」と同日の開催となった。「地域連携の理論と実際」は前期4月～7月の毎週水曜日4時限に開講され、38名が受講した。

本学の地域連携推進委員会が関わる行事である富士河口湖町内の清掃活動「ウォーク・クリーニング隊」が5月22日（日）と10月1日（土）に行われ、それぞれ、34名、19名の学生ボランティアが参加した。

キーワード：地域連携

包括的連携協定

ボランティアセンター

知的財産の共有

I. はじめに

この報告では、平成28年度に本学地域連携推進委員会が関わった活動をまとめ、「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」の目的に基づいて、到達度等を総括した。

II. 地域連携推進委員会総会

平成28年6月28日に渡辺喜久男 富士河口湖町町長と荒木力 健康科学大学（本学）副学長をはじめ、連携事業に関わる各部署の代表が出席し、4回目となる富士河口湖町・健康科学大学 地域連携推進委員会総会が開かれた（図1 a, b）。健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定に基づいて平成27年度に行われた活動の報告や、平成28年度の活動予定が確認された。「町が学術的研究のフィールドを提供、例えば福祉施設や保育施設の現場で研究を実施する可能性」や「大学・住民・行政で課題の共有ができないか」、「防災上の連携」等について意見が交わされた。また、町から「外国語ができる看護師の養成」、大学からは「町独自の奨学金制度を設けてほしい」等の要望も示された。

III. 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

表1 H28 健康科学大学・富士河口湖町 地域連携講座 日程

回	講座名	講師	日時	場所
1	日常生活における認知症の予防	理学療法学科教授 金 信敬	9/27(火) 11:00~12:30	健康科学大学 都留キャンパス
2	あなたの身体を守る筋トレ講座－ フレイルの予防について	理学療法学科助教 高木 大輔	10/9(日) 10:00~11:30	健康科学大学 河口湖キャンパス
3	暑さ寒さと健康	福祉心理学科教授 永井 正則	11/20(日) 10:30~12:00	富士河口湖町 中央公民館 視聴覚室
4	睡眠と健康	福祉心理学科教授 永井 正則	平成28年 11/20(日) 13:30~15:00	富士河口湖町 中央公民館 視聴覚室

本事業は、前述した本学と富士河口湖町の「包括連携協定」を結ぶきっかけであり、平成28年度（本年度）で8年目を迎える。本年度も、「健康」を共通のテーマとして全4回の講座を開催した。表1に、各回の要項をまとめた。

第1回は、本年度4月に開設された看護学部がある健康科学大学都留キャンパスで、9月27日(火)に開催された。第2回は、本学の蒼麓祭（文化祭、図1 c, d）に、第3回、4回は、富士河口湖町の「コミュニティフェスタ」において、それぞれの企画の一つとして開催された。



図1 1a, 1b は地域連携推進委員会総会の様子
1c, 1d は、地域連携講座の様子（第2回 河口湖キャンパスにて）

IV. 地域連携の理論と実際

本講座では、本学に地域行政の専門家である富士河口湖町の職員を講師として招いて、「行政全般」、「福祉」、「文化」、「健康増進」などにかかわる町の取り組みや課題を紹介してもらっている。前述の「包括連携協定」が結ばれたことによって開講される、大変特色のある講座である。本年度は、4回の大学における講義（図2c）と富士河口湖町主催の清掃活動への参加（図3a, b）を通して、興味をもった項目や課題について、学生がグループ単位で町役場職員や担当教員の指導を受けながら調査・研究を行い、最終的に研究発表会を行った（図2a, b）。本年度は、38名の受講者があった。

V. 学生のボランティア活動

平成23年に全学的なボランティアセンター（以下、センター）が開設されてから、地域連携推進委員会がその運営に関わってきた。センターは、おもな業務として、ボランティア情報の提供、ボランティアに関する相談やコーディネートを行っている。またセンターに登録する学生に、ボランティアに関する情報をメール配信している。さらにセンターでは、ボランティアの依頼元を選別したり、傷害保険を紹介したり、学生に不利



図2 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」での様子

2a, 2b は、学生による課題研究発表会

2c は、岡村 等 特別講師（富士河口湖町役場職員）による講義の様子

表2 平成28年度月別ボランティア参加者（9月30日現在）

月/学科・学年	PT 1	PT 2	PT 3	PT 4	OT 1	OT 2	OT 3	OT 4	SW 1	SW 2	SW 3	SW 4	計
4月		1							4				5
5月					33			4					37
6月												1	1
7月	8				5				2		3		18
8月											2		2
9月									1		1		2
計	8	1	0	0	38	0	0	4	7	0	6	1	65

PT：理学療法学科、OT：作業療法学科、SW：福祉心理学科

益がないよう努めている。本年度、センターは学生サポートセンター（B棟1階）の中に併設されることになり、専任のスタッフも常駐することとなった。

本年度10月1日現在、278名の学生（理学療法学科：102名 作業療法学科：124名

福祉心理学科：48名 看護学科：4名）が登録している。表2に本年度（9月30日現在）の学生のボランティア参加状況を示す。

「包括連携協定」が締結されて以来、本学学生と富士河口湖町役場職員、富士河口湖町民有志「まちづくりワークショップ」を主体として毎年「ウォーク・クリーニング隊」として河口湖畔の清掃活動が行われてきた。本年度も、5月22日（日）と10月1日（土）に、それぞれ、「富士河口湖町1万人の清掃活動」、「ぐるり富士山風景街道一周清掃2016」に合わせて行われた。5月22日の活動は前述の「地域連携の理論と実際」受講者38名が参加し（図3a, b）、10月1日には19名の学生ボランティアが参加した（図3c, d）。



図3 学生による町内清掃活動の様子

3a, b: 5月 「富士河口湖町1万人の清掃活動」へ参加

3c, d: 10月 「ぐるり富士山風景街道一周清掃2016」へ参加

VI. まとめ

富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本年度、第1回は4月に新たに開設された都留キャンパス、第2回は河口湖キャンパス、第3回、4回は富士河口湖町の中央公民館と、異なる3か所で開催された。

本学の専門領域でもある「健康」を大きなテーマとして、講師を本学教員から広く募

り、応募した講座担当教員が、それぞれの専門性に応じて細かいテーマや内容を企画した。

また初めての試みとして、富士北麓地域のコミュニティーラジオ局から一部の講座の宣伝をして受講を呼び掛けた。

複数箇所での開催とラジオ放送も利用して講座への参加を呼び掛けたことで、より広く、本学から知的情報を発信できたと思われる。

地域連携の理論と実際

本講座は、平成23年に教育課程上の福祉心理学科の「専門基礎科目」として開講した。受講対象が制限されていたため開講当初は、受講者が数名しかいないこともあった。

地域行政について、専門家から現場の話を聞くことができる大変貴重な機会であるため、平成25年度からは本学の教育課程上の「総合基礎科目」として、本学のすべての学生が受講しやすくなった。最近は毎年数十名が受講している。

今後も時間割を本学「教務委員会」と相談しながら、多くの学生が受講できる日時に開講できるよう心掛けたい。

学生のボランティア活動

昨年度の登録者は297名、ボランティア活動参加者は107名であった（平成27年10月1日時点）。今年度の登録者数（278名）は昨年に比べ若干減少した。一方ボランティア活動参加者は65名で、大きく減少した。ボランティアセンターは本年度4月、学生サポートセンター内に新たに開設され、専任の職員が常駐するようになった。学生にとってはボランティア活動へのアクセスが良くなったはずであるが、これまでのところ、活動数はむしろ減少した結果となっている。昨年度まで開講されていた学生のボランティア活動を奨励する講座「ボランティア活動の実際」が、担当教員不在のため閉講となっていることも一因ではないかと考えている。ボランティア活動への参加は、学生が社会経験を積む上で、また医療・福祉を学ぶ本学の学生がコミュニケーション能力を向上させる上で、とても良い機会になると思われるので、より多くの参加を促す努力をしていきたい。

〈参考文献〉

-
- 地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割，健康科学大学紀要 Vol. 7, 35-49, 2011.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成23年度）健康科学大学紀要 Vol. 8, 129-138, 2012.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成24年度）健康科学大学紀要 Vol. 9, 105-112, 2013.

健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成28年度）

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成25年度）健康科学大学紀要 Vol. 10, 119-126, 2014.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成26年度）健康科学大学紀要 Vol. 11, 183-190, 2015.

地域連携推進委員会 加藤智也 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成27年度）健康科学大学紀要 Vol. 12, 83-89, 2016.

Abstract

The current study reviews the collaborative activities of the Health Science University and the town of Fujikawaguchiko during 2016. It also evaluates the degree to which the goals set by the “Agreement on Community Collaboration” were achieved. In terms of the “Co-ownership of Intellectual Property” listed in the agreement, lectures aimed at community members were organized by university professors. The first lecture was given on the university’s new Tsuru Campus. The second was given on the Kawaguchiko Campus as part of the University festival. The other lectures were given as events during the town festival. Meanwhile, governmental officers in the community provided lectures for the university students in the first semester and 38 students completed the course this year. The university students were actively involved in local volunteer work, such as the “Health Science University Walk Cleaning Corps,” held on May 22 and October 1.

Key words : community collaboration

Agreement on Community Collaboration

volunteer center

Co-ownership of Intellectual Property